

令和2年度（2020年度）  
北海道教育研究所連盟 所員研修会 動画②

# Web会議システムの活用事例及び 事例の成果と課題について

## ねらい

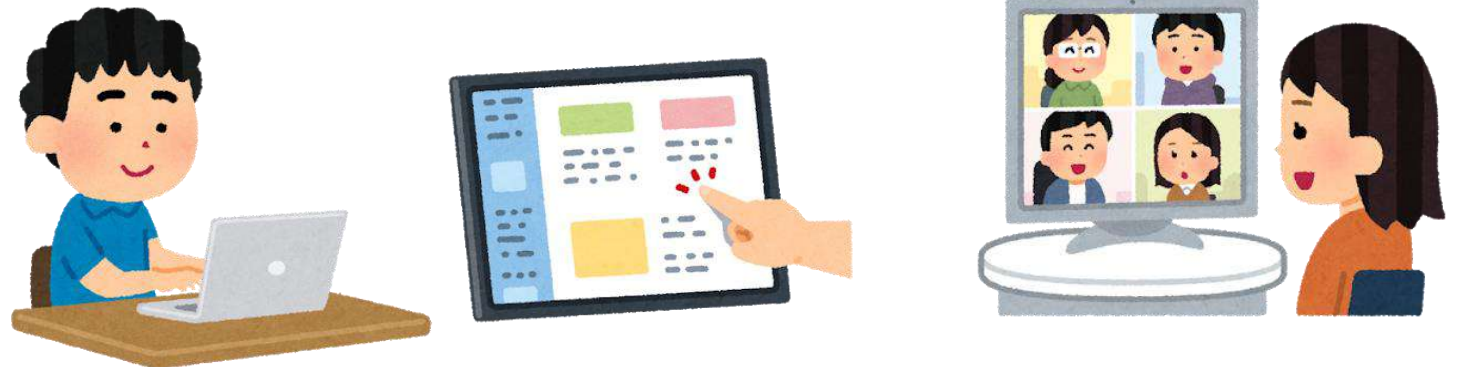
各加盟機関におけるWeb会議システムを活用した研修講座及び会議等の新たな運営や学校における授業等での活用の在り方についての知識を得る。

本動画は、Zoomの活用事例についての  
説明が中心となっています。

Zoomの基本的な操作については、  
動画①を御視聴ください。

# 内容

- 1 はじめに
- 2 Web会議システムの活用でできること
  - ① 教育研究所・センターでの活用
  - ② 学校での活用
- 3 国や道の取組
- 4 Web会議システムの活用に向けて
- 5 まとめ



## 現在の課題

所員としては

- ・ 研修講座等の事業推進ができない

教員としては

- ・ 授業等の遅れ
- ・ 校外学習や行事等の制限
- ・ 再び臨時休校になった時の備えが不十分



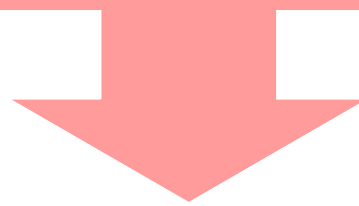
感染リスクは避けたいが…

研修講座等の事業を可能な限り実施したい。

児童生徒の学びは止めたくない。多様な学びを実現したい。

## 現在の課題

- ・ 今後も、いつ、どこで感染者が出るか分からない状況
- ・ 感染状況によっては、再び臨時休校になる可能性がある



課題解決のための一つのツールとして  
Web会議システムZoomを活用してみませんか？

# Web会議システムの活用でできること

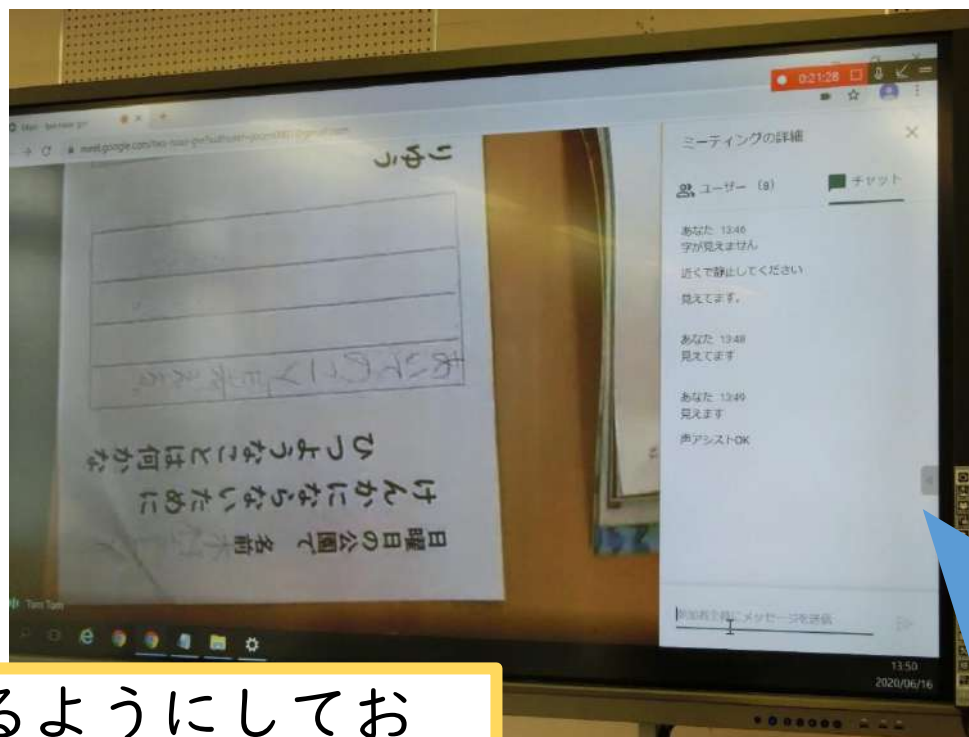
教育研究所・センターで可能になることは

例えば

3つの密や移動リスクを避けた  
遠隔での研修講座や会議の実施

# 3つの密を避けた遠隔での研修講座

事例：厚真町×北海道立教育研究所 Web会議を利用した遠隔研修



【チャット】  
講師：前から2番目の赤い服の女の子のワークシートを映してください。

講師：字が見えません。近くで静止してください。

会場：これでどうですか。

役割を決め、状況を把握できるようにしておくと、教室で参観している時と同じように情報を得ることが出来ます。

# Web会議を利用した遠隔研修のポイント

## 会場と講師をどのようにつなぐかを工夫をする

### 【会場側】

- ・複数のカメラを活用して、授業の様子を伝える。
- ・タブレット端末操作役を配置する。
- ・タブレット端末操作役は、チャットで講師からの指示を受けて動く。  
(児童生徒のワークシート等への記述内容を映したり、児童生徒への聞き取りをしたりする。)

### 【講師側】

- ・複数のモニターで、授業の様子を把握する。
- ・チャット操作役を配置する。
- ・座席表等を活用し、ワークシート等の記入内容を確認したい児童生徒の場所を把握しておく。
- ・チャットでタブレット端末操作役へ指示を送る。



# 3つの密、移動リスクを避けた会議の開催

事例：北海道教育研究所連盟 Zoomを活用した遠隔会議

スムーズに進行するために、司会やチャット対応などの役割を分けています。参加者からの質問や機器トラブルへの対応ができるように工夫しています。



司会役

メイン会場

チャット・機器操作役



グループ協議では  
Aグループに

配信画面や音量の確認  
グループ協議ではBグループに



サブ会場

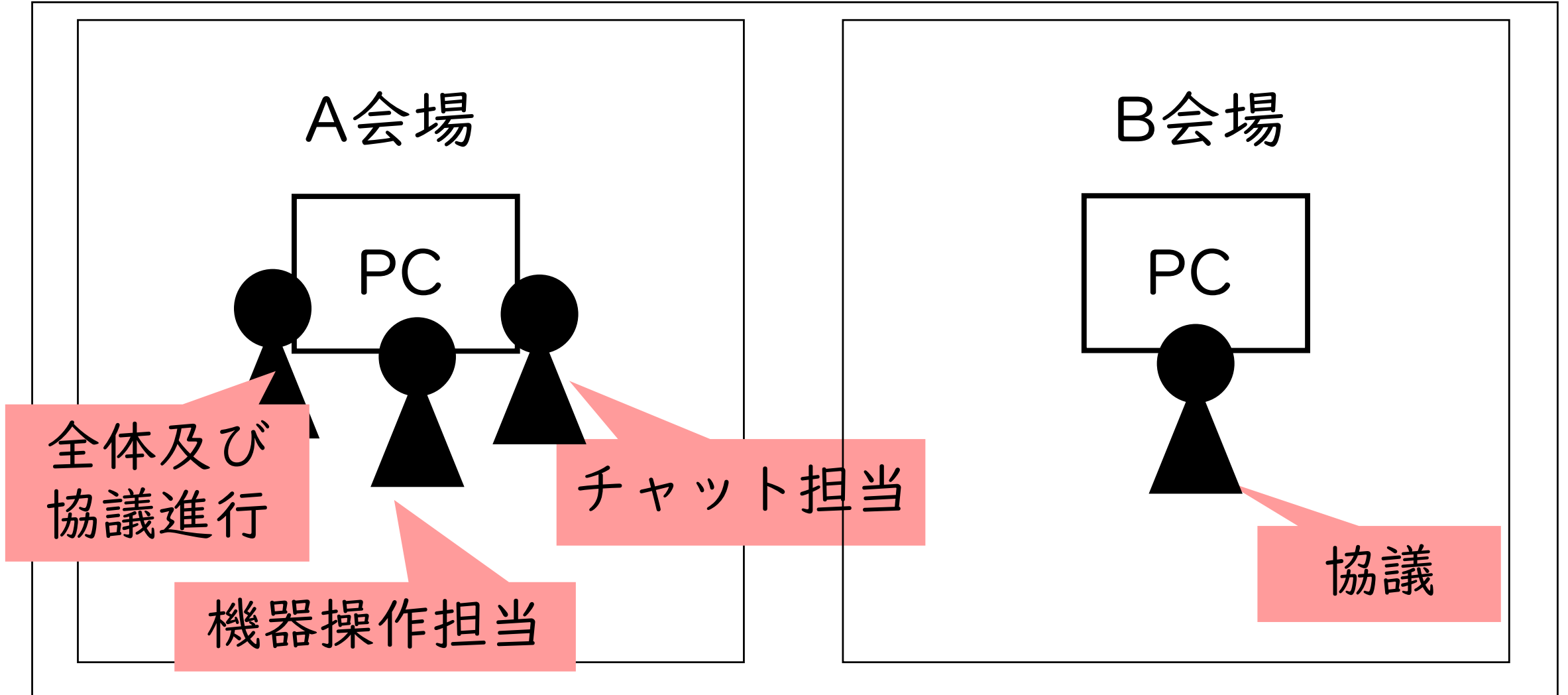
# Zoomを活用した遠隔会議のポイント

## 複数体制で配信する

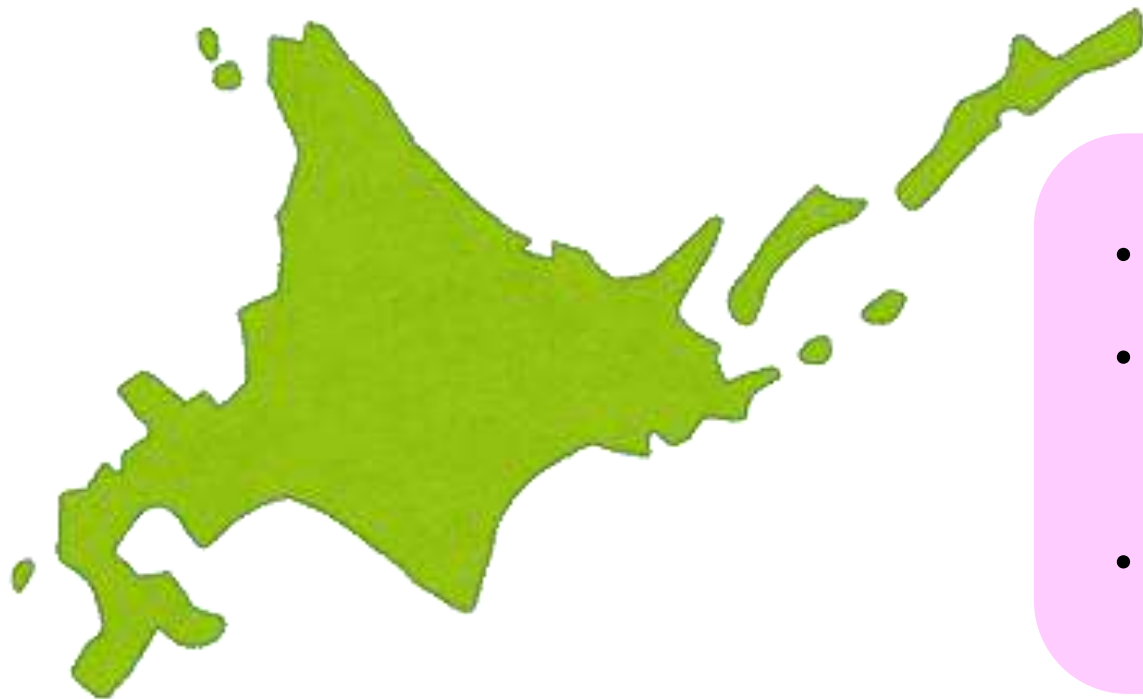
### 配信する際に留意した点

- ・ 「進行」「機器操作」「チャット」「グループ協議」の担当等を可能な範囲で役割を細分化する。
- ・ 会議中の機器トラブルにはチャットで対応する。
- ・ メイン会場とサブ会場を用意し、ブレイクアウトセッションでの協議中に音声混ざらないようにする。

# メイン会場とサブ会場を用意する



## 新型コロナウイルス感染症収束後も・・・



- ・ 移動時間・旅費の削減
- ・ 研修や研究会参加の選択肢の広がり
- ・ 地域差の解消

広域な北海道においては有益な方法として、対面と併せて研修講座等に活用できる。

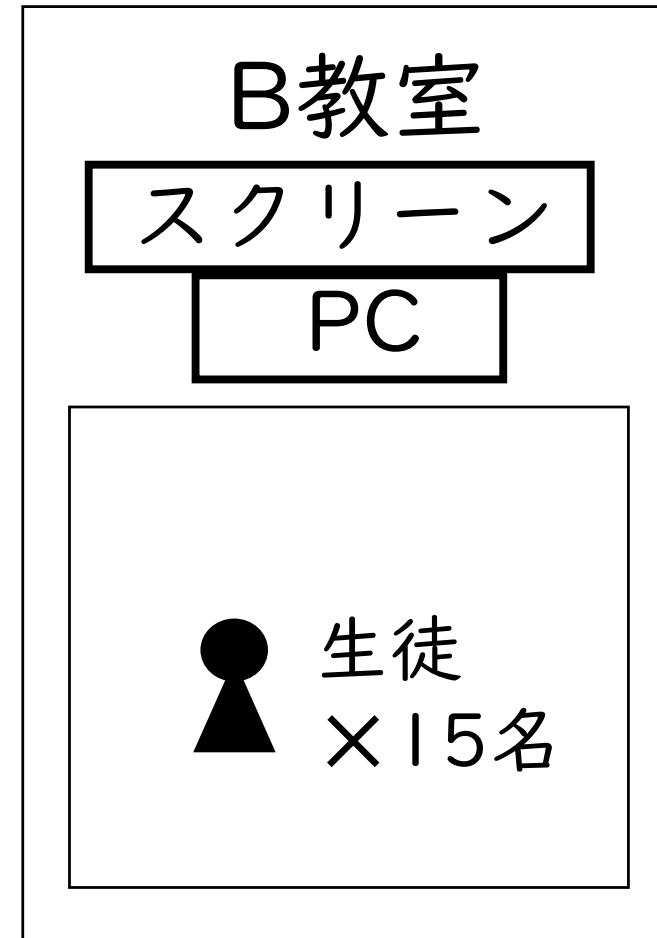
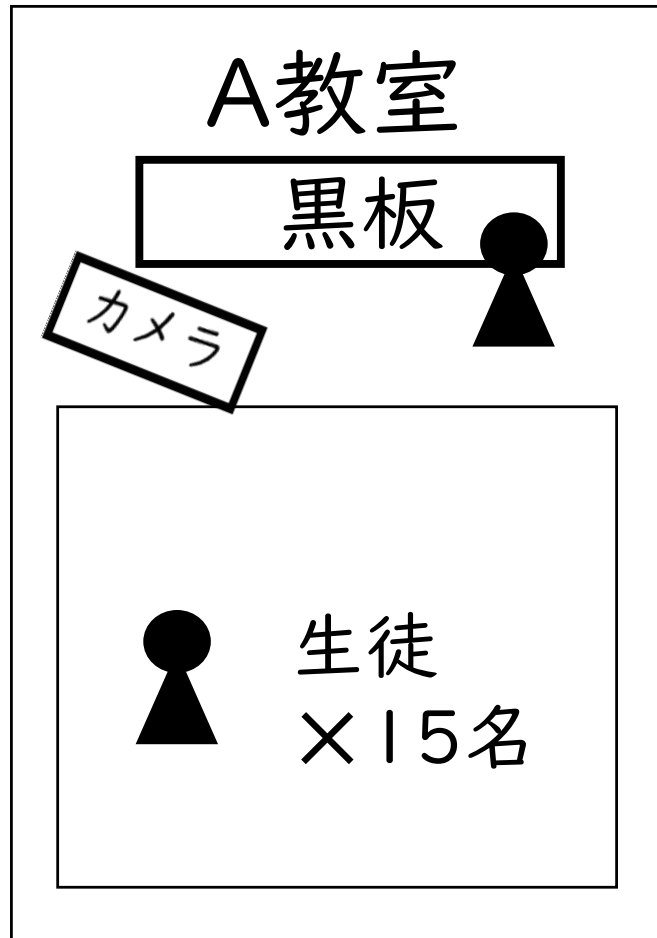
# Web会議システムの活用でできること

学校で可能になることは

例えば

- ・ 3つの密を避けた授業の実施
- ・ 移動リスクのない遠隔でのゲストティーチャー活用
- ・ 3つの密をさけた公開研究会
- ・ 行事や学校の様子などを配信する保護者等への情報提供
- ・ 臨時休校時のリモート学習や健康観察

# 3つの密を避けた授業の実施



# 移動リスクを避けた遠隔でのゲストティーチャー活用

事例：留萌市立潮静小学校学校と外部の専門家をつなぐ教育資源の活用

## 旭山動物園の「i-ねっとわーく授業」 活用による成果

- ・ 専門家の説明による深い理解
- ・ 児童の興味・関心の向上
- ・ 時間やコストの削減

専門的な説明を直接聞くことで、興味・関心の高まりが見られました。

画面に映る飼育員さんの説明を  
真剣に聞き、理解を深める児童

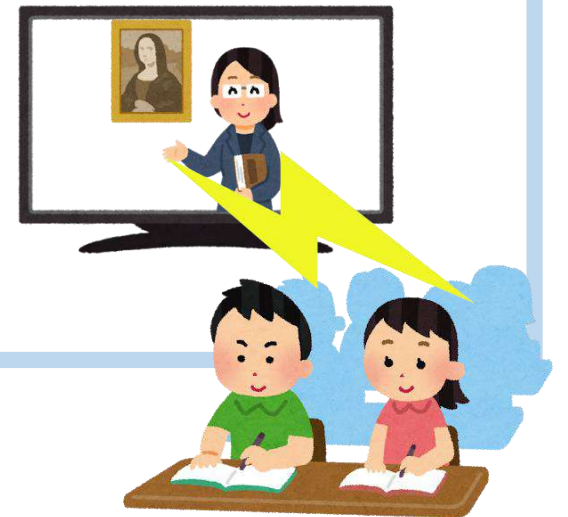


## 遠隔地のゲストティーチャー活用の際のポイント

### 教育施設や地域と連携した教育活動を展開する

一般的な事前指導の他に考えられる事前指導や準備

- ・ 児童生徒には、質問はゆっくりはっきり短くまとめて行うよう指導する。
- ・ ゲストティーチャーには、事前に接続テストを行い、カメラや音声をチェックする。





# Zoomを活用した児童生徒支援

事例：新篠津村立新篠津中学校 Zoomを活用した学級ミーティング  
と個別の学習支援

- ・ Web会議システムZoomを活用した個別の学習支援
- ・ 児童生徒の健康状態の把握・心のケアを行う学級ミーティング

Web会議システムを活用すると、児童生徒からの質問にすぐに対応することができます。



# 遠隔で行う学習状況や健康状態の把握

事例：鶴居村立鶴居小学校 個に応じた支援

- ・「IP電話(テレビ電話)」を活用した児童一人一人の学習状況の把握・学習指導や、健康状態の把握・心のケア

Web会議システムでも同様の取組ができます。  
表情や声のトーン、話し方等の小さな変化に気付くことができます。



## 新型コロナウイルス感染症収束後も・・・

- ・ 1人1PCを活用した公正に個別最適化された学びへの転換がしやすい
- ・ 学校と学校・各種施設をつなぐ多様な学びを実現
- ・ 公開研究会等の実施形態や参加の可能性の広がり

# 学校間の日常的な遠隔授業、生徒間交流

事例：幌延町立幌延中学校 道徳科における遠隔地との生徒間交流

## 交流による成果

- ・異なる学校の生徒の多様な考えに触れ、様々な価値観に気付く
- ・自分の考えを改めて再考することによる思考の深化
- ・若手教員の指導力の向上

他地域の生徒との交流により、多様な価値観に触れることが期待できます。

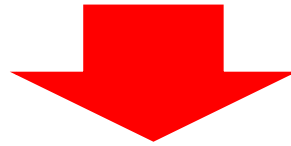


【幌延と附属の意見交流の様子】

# 地域の特色を生かした交流授業

事例：北海道立教育研究所 「未来の教室」で行う遠隔模擬授業

Web会議システムで根室と檜山をつなぎ、それぞれの地域の漁業についての発表や、質問・感想等の交流



他の地域の児童生徒の  
生の声が聞ける

こちらでは、漁師さんが箱眼鏡を使ってウニを見つけては、たも網で上手にすくってウニをとっていました。



檜山



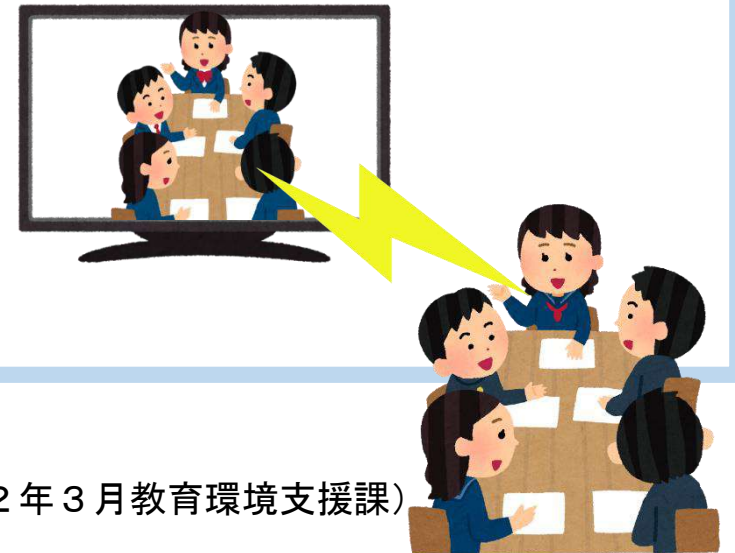
根室

漁師さんはサンマが光に集まる習性を生かして、夜に海を照らしながらサンマをとるそうです。  
船にたくさんのライトがついている理由が分かりました。

## 他の地域の学校との交流学习を行う際のポイント

合同で学習活動を行う場面で次のような配慮をする

- ・授業を進める教員が両校の児童生徒から意見を聞き問い返す場面や、両校の児童生徒が話し合う場面等について、どの程度の回数を位置付けるのか、時間等の制約を踏まえた考慮が必要。



## 児童生徒の「学びを保障する」ために、国では

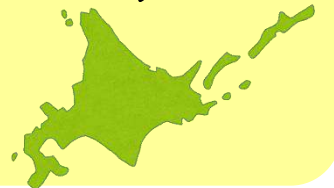
### 新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の 「学びの保障」総合対策パッケージ

#### 5. 学習指導等 (1) 学習指導・ICTの活用

- ・ 児童生徒に家庭学習を課す際や学習状況の把握を行う際にはICTを最大限活用して遠隔で対応することが極めて効果的である。
- ・ 家庭のパソコンやタブレット，スマートフォン等の活用，学校の端末の持ち帰りなど，あらゆる機器や環境を最大限活用する。
- ・ 遅くとも令和2年8月までには，少なくとも小学校第6学年・中学校第3学年等の最終学年の児童生徒や，経済的理由等でICT環境を準備できない家庭に対してICT環境が整備されることを目指す。

児童生徒の「学びをとめない」ために、道では

新型コロナウイルス感染症対策に係るリモート学習応急対応マニュアル  
「学びをとめない」「心が近づく」環境づくり



## 1. ICT を活用した家庭学習支援の具体的な取組

(4) ウェブ会議サービスを活用した、児童生徒との双方向コミュニケーション

教員が、自宅にいる児童生徒と顔を見ながらコミュニケーションを図る方法として、ウェブ会議サービスを活用することができます。児童生徒との個別面談や学級活動及びホームルーム、オンライン授業のような使い方も可能です。



## GIGAスクール構想の実現

Society5.0時代を生きる子どもたちに相応しい、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学び

「1人1台端末」と学校における高速通信ネットワークの整備

- ・ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う
- ・ 公正に個別最適化された学びの実現
- ・ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む
- ・ 校務の効率化
- ・ 学びの知見の共有や生成

## 新学習指導要領では

小・中・高ともに

- ・ 情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け
- ・ 学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実を明記

全てはこれからの社会を生きる  
児童生徒の未来のために

活用したいけれど、なかなか踏み切れない  
活用したいけれど、周囲の賛同が得られない

まずは研修をしてみませんか

例えば…

- ・ 職員研修にWeb会議システムを取り入れ、体験型の研修を行う。
- ・ 基本的な操作方法や機能に係る研修会を開く。
- ・ 本所員研修会の研修動画①を視聴し、Web会議システムで可能になることを話し合ってみる。
- ・ Web会議システムを使った講義を受講する。
- ・ 模擬研修で配信側、受信側双方を体験してみる。

# Zoomを活用した研修のイメージ

事例：十勝教育局 リモート学習の実施に係る教職員研修会

Web会議システムZoomを活用した職員研修

- ・ パワーポイント資料を画面共有しながら説明
- ・ ビデオ通話で質疑応答

同時双方向のやり取りにより、その場で質疑応答をしている様子などを見ることができます。



Zoomを使った研修の様子  
下記URLから視聴可能



## Web会議システムの利点

- 3つの密を避けて、新たな研修様式、授業形態を創造できる。
- 再度の臨時休業等へのリスクヘッジの一助となる。
- 新型コロナウイルス感染症が収束しても活用場面は無限にある。

今、できることから初めてみませんか

## 第2波、第3波に備えて

社会全体が、長期間にわたり、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない状況

感染症対策と児童生徒の健やかな学びの保障の両立のために、どのような準備が必要でしょうか。

準備をすることにより、児童生徒への支援の幅が広がる

# 児童生徒の学びも教師の学びも止めないために

- ・今できる備えをしっかりとっておきましょう。
- ・できない理由に目を向けるよりも広がる可能性に目を向けてみましょう。

Web会議システムの活用で  
感染症対策と児童生徒の健やかな学びの  
両立を目指しませんか？

令和2年度（2020年度）  
北海道教育研究所連盟 所員研修会 動画②

# Web会議システム活用事例及び 事例の成果と課題について

## おわり

視聴後はWebアンケートへのご記入をお願いいたします。

内容に係る御質問等も、ぜひ御記入ください。